



TITLE:

支那經濟思想ノ出發點(二、完)(儒家及ビ道家ノ欲望論)

AUTHOR(S):

小島, 祐馬

CITATION:

小島, 祐馬. 支那經濟思想ノ出發點(二、完)(儒家及ビ道家ノ欲望論). 經濟論叢 1917, 4(5): 707-719

ISSUE DATE:

1917-05-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127202>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第四卷 第五號

大正六年五月一日發行

論說

經濟的行爲と道德的行爲との關係(一)……………法學博士 田島錦治

奢侈税ノ辯難……………法學博士 神戸正雄

きんぐノ法則と米麥價……………法學士 河田嗣郎

經濟心理學ノ組織的研究(四、完)……………米田庄太郎

支那經濟思想ノ出發點(二、完)……………法學士 小島祐馬

時事問題

貿易ニ對スル金融ノ改善……………法學博士 戸田海市

支那關稅引上と日本ノ紡績業……………法學博士 神戸正雄

雜錄

米國ノ海外放資力……………法學博士 神戸正雄

獨領植民地ノ處分問題……………山本美越乃

移民と米國ノ勞働……………米田庄太郎

米國聯邦農地貸附法……………法學士 河田嗣郎

支那經濟思想ノ出發點 (二、完)

(儒家及び道家ノ欲望論)

小 島 祐 馬

三 道家ノ無欲論

一 道家ノ學ハ周末ノ社會狀態ニ憤激シテ起リタル反動思想デアツテ、極端ナル社會改革論デアル。何故ニ道家ガ當時ノ社會ニ憤激セシカト云フニ、社會ノ文化漸ク進ムト共ニ人々巧智ニ長ケ名利ヲ追ヒ、輕佻浮華ノ俗、紛亂鬭爭ノ勢、底止スル所ヲ知ラナイ狀態ト爲ツタガ爲メデアル。而シテ斯カル混亂セル社會ヲ否認シ去リ、茲ニ太平郅治ノ新社會ヲ作り出サントスルコトガ、即チ道家ノ終局ノ理想デアツテ、其ノ學ハ畢竟此ノ理想ノ上ニ建設セラレタルモノニ外ナラヌノデアル。道家ノ唱道スル所ノ學說ハ固ヨリ中正ノ道ニ適フモノト謂フコトヲ得ザルモ、支那ニ在リテハ嘗テ此ノ學ガ實際政治上ニ採用セラレタル時代モアリ、又政治上ニハ採用セラレザルモ、社會上ニ非常ナル勢力ヲ有シタルコトハ屢アルノデアツテ、一般學者ノ思想ニ影響ヲ有スルコト、儒家ノ學ニ亞イデ最大ナルモノガアルノデアル。

天地ノ妙用ヲ觀ジ之ヲ以テ人事ノ規範トスルコトハ、支那ノ學者ノ一般ニ探ル所デアツテ、道

家ト雖亦其ノ例ニ洩レヌノデアル。道家學說ノ根本觀念ハ道ノ一字ニ存スル。道トハ何ゾ、自然デアル。道家ニ從ヘバ人間最上ノ善ハ道ニ從フコトデアル、即チ自然ノ法則ニ順應スルコトデアル。之ヲ除キテ別ニ善トイフモノガ存スルノデハ無イ。サレバ老子ニ『人ハ地ニ法リ、地ハ天ニ法リ、天ハ道ニ法リ、道ハ自然ニ法ル』(註一)トアルハ、即チ此ノ義ヲ述ベタモノデアル。但シココニ自然ト言フモ、固ヨリ人々ノ欲望ヲ際限ナク増大セシメ、自由競争ニ放任スルノ意デハナイ。却ツテ之ト反對ニ、欲望増大ト自由競争トハ其ノ最忌ム所デアツテ、是レハ甚ダ不自然ナル社會現象ナリトシ、當時ノ社會ガ薄俗ノ極點ニ達シタノハ、畢竟カカル不自然ノ狀態ニ陥リタル結果デアルトシ、痛ク此ノ兩者ヲ排斥シテ居ル。尤前ニモ述ベシ如ク儒家ノ學ニ在リテモ、亦道德ヲ以、自然ニ本ヅクモノナリトシ、之ニ合一スルヲ以テ其ノ理想トスルノデアルガ、併シ儒家ノ所謂道德 即チ仁義トカ禮樂トカ云フモノハ、道家ニ於イテハ之ヲ自然ニ本ヅクモノトハ看做サズ、全然人爲的ノモノナリトシテ盛ソニ攻撃ヲ加ヘテ居ル。老子ガ『大道廢レテ仁義有ナリ、智慧出デテ大僞有リ、六親和セズシテ孝慈有リ、國家混亂シテ忠臣有リ』(註二)ト言ヒ、又『夫レ禮ハ忠信ノ薄ウシテ亂ノ首也』(註三)ナド言ツテ居ルノハソレデアル。即チ斯カル不自然ヲ以テ道德トシ政治ヲ行フ結果、繁文縟禮ニ流レ、虛僞罪惡ヲ助長シ、社會ヲシテ益混亂ヲ重クシムルモノデアルトスルノデアル。

然ラバ道家ノ唱フル所ノ自然即チ道トハ抑如何ナルモノナルカト云フニ、之ヲ知ルニハ道家ノ宇宙觀ヲ一瞥スル要ガアル。老子ニ從ヘバ道トハ天地萬物ノ終局原因ノ名稱デアル。此ノ道ハ萬

物ノ根本デアツテ、萬物ニ超越シテ居ルト同時ニ、又萬物ニ周行シテ居ルモノデアル。曰ハク『物アリ混成ス、天地ニ先ダチテ生ズ、寂タリ寥タリ、獨立シテ改メズ、周行シテ殆カラズ、以テ天下ノ母ト爲ルベシ、吾其ノ名ヲ知ラズ、之ニ字シテ道ト曰フ』(註四)ト。而シテ此ノ所謂道ナルモノノ本體ハ、寂然不動全ク無爲デアルケレドモ、其ノ作用ニ至ツテハ常ニ活潑潑地頃刻モ休止スルコトナク、宇宙ノ森羅萬象ハ一トシテ此ノ道ノ作用ニ非ザルモノハ無イ。ソレヲ老子ハ『道ノ常ハ爲スコト無クシテ爲サザルコト無シ』(註五)ト言ツテ居ル。道ノ作用ハ此ノ如ク廣大ナルモ元來道ハ非人格的ノモノデアツテ、其ノ作用ハ無意識的ノモノデアル。故ニ曰ハク『天地不仁、萬物ヲ以テ芻狗ト爲ス』(註六)ト。蓋シ道ニハ心無シ、花ノ咲キ花ノ散ルハ、天地ガ花ヲ咲カセシ花ヲ散ラセント思ヒテ爲スニ非ズ、自然ニ花咲キ花散ルノデアル。之ヲ生ズルハ之ヲ愛スルニ非ズ、之ヲ滅スルハ之ヲ惡ムニ非ズ、何等意欲ナシ、要ハ其ノ自然ニ任スノミデアル。又曰ハク『道之ヲ生ジ之ヲ畜ヒ、之ヲ長ジ之ヲ育シ、之ヲ亭シ之ヲ毒シ、之ヲ養ヒ之ヲ覆フ、生ジテ有セズ、爲シテ恃マズ、長トシテ宰ラズ、是レヲ玄德ト謂フ』(註七)ト。道既ニ無心ナル以上、其ノ活動シテ成シ遂ゲタル結果ヲ自己ニ有セントスル意志モ無ケレバ、其ノ功ニ誇ルノ意志モ固ヨリ無イノデアル。老子ノ所謂自然即チ道ハ大略斯クノ如キモノデアル。列子莊子ニ至ツテハ其ノ說更ニ詳密ヲ加ヘテ居ルガ、其ノ根本原理ニ於イテハ老子ト少シモ相異ル所ハ無イノデアル。

(註一) 人法地、地法天、天法道、道法自然、『老子』第二十五章、據王註本、以下倣之

(註二) 大道廢有仁義、智慧出有大偽、六親不和有孝慈、國家昏亂有忠臣、(同第十八章)

(註三) 夫禮者、忠信之薄而亂之首也、(同第三十八章)

(註四) 有物混成、先天地生、寂兮寥兮、獨立而不改、周行而不殆、可以爲天下母、吾不知其名、字之曰道、(同第二十五章)

(註五) 道常無爲、而無不爲、(同第三十七章)

(註六) 天地不仁、以萬物爲芻狗、(同第五章)

(註七) 道生之、畜之、長之、育之、亭之、毒之、養之、覆之、生而不有、爲而不恃、長而不宰、是謂玄德、(同第五十一章)

二 道家ノ道德論經濟論ハ直チニ其ノ宇宙論ヨリ導クコトヲ得ルノデアル。道家ハ末世流季人
人技巧ヲ弄シ虚偽ヲ構ヘ、爭奪相繼グニ至ツタ原因ヲ窮メテ、之ヲ人間ノ欲望ニ歸シテ居ル。其
ノ理由如何ト云フニ、前述ノ如ク天地自然ノ道ハ、虚靜無爲何等意欲ナシニ行動シテ居ル。サレ
バ人間ノ行爲モ、亦當サニ恬澹無欲、謙下爭ハザルヲ主旨トスベキニ、事實ハ全ク之ニ反シ、驢
クナキ欲望ヲ満足セシノンガ爲メニ競争擠排是レ事トシテ居ル有様デアル。是レガ斯カル不自然
ナル墮落社會ヲ現出シタ根本原因デアツテ、此ノ欲望サヘ抑制セシメタナラバ、人々ヲシテモト
ノ自然ニ復歸セシメ、淳樸ナル社會ヲ形作り得ルモノト考ヘタノデアル。サレバ老子ハ『不欲ニ
シテ靜ナラバ、天下將ニ自ラ正シカラントス』(註一)ト言ヒ、莊子ハ『夫レ虚靜恬澹、寂寞無爲ハ、
天地ノ平ニシテ道德ノ至ナリ、故ニ帝王聖人休ス』(註二)ト言ツテ居ル。從ツテ道家ノ學デハ無
欲論ガ其ノ最主要ナル地位ヲ占ムルコトナルノデアル。元來此ノ世ノ中ニハ隨分誘惑ガ多クア
ツテ、吾人ノ欲望ヲ増長セシムルモノデアル。即チ『五色ハ人ノ目ヲ盲セシメ、五音ハ人ノ耳ヲ
聾セシメ、五味ハ人ノ口ヲ爽ハシメ、馳騁田獵ハ人ノ心ヲ發狂セシメ、得難キノ貨ハ人ノ行ヲ妨
ゲシム』(註三)。此ノ誘惑ノ間ニ在リテ、吾人ハ何處マデモ恬澹無欲デナクテハナラヌノデアル。

サレバ老子ハ『禍ハ足ルコトヲ知ラザルヨリ大ナルハ莫ク、咎ハ得ルコトヲ欲スルヨリ大ナルハ莫シ』(註四)ト言ヒ、而シテ之ト反對ニ『足ルコトヲ知レバ辱メラレズ、止マルコトヲ知レバ殆カラズ』(註五)トモ、又『足ルコトヲ知レバ富ム』(註六)トモ言ツテ居ル。即チ欲望ヲ際限ナク充タサントシテ奮闘努力スルハ、遂ニ満足ノ狀態ニ到達シ得ザルノミナラズ、適マ以テ災禍屈辱ニ近ツク所以デアツテ、欲望サヘ制限スレバ財貨ノ供給ヲ多クスルヲ待タズシテ其ノ満足愈大トナリ、人生ノ幸福ハ却テ這ノ裏ニ在リトスルノデアル。

次ニ欲望満足ノ用ニ供セラルベキ財物ノ方面ヨリ觀ルニ、老子ハ『得難キノ貨ヲ貴バザレバ民ヲシテ盜ヲ爲サザラシム』(註七)ト言ヒ、莊子ハ『玉ヲ槌チ珠ヲ毀テバ小盜起ラズ』(註八)ト言ツテ居ル。凡ソ欲望ノ發達ハ同時ニ奢侈ヲ促シテ、得難キノ貨ヲ貴ブノ俗ヲ成シ、得難キノ貨ヲ貴ブノ結果ハ、自由競争ヲ激成シテ遂ニ他人ノ財物ヲモ犯スニ至ルノデアル。又列子ニ從ヘバ元來私有財産ハ贓物デアル。曰ハク『天ニ時アリ地ニ利アリ、吾大地ノ時利、雲雨ノ滂潤、山澤ノ產育ヲ盜ンデ、以テ吾ガ禾ヲ生ジ、吾ガ稼ヲ殖シ、吾ガ垣ヲ築キ、吾ガ舍ヲ建ツ、陸ニハ禽獸ヲ盜ミ、水ニハ魚鱉ヲ盜ム、盜ムニ非ザル亡シ』(註九)ト。夫レ禾稼土木禽獸魚鱉ハ皆天ノ生ズル所デアツテ、勿論吾人ノ固有スル所デハナイ。此ノ點ヨリ言ヘバ假令他人ノ財物ヲ盜マザルモ、天ノ所有物ヲ犯スノ罪遁ルル所ハナイ。然ルニ人間モ亦天ノ一部デアル、唯之ヲ用フルニ當リ私心ナク、自然ノ儘ニシテ足ルコトヲ知ルナラバ、其ノ徳始メテ天地ニ等シク、盜ト不盜ト亦辨ズルヲ須キナイト爲シテ居ル。サレバ道家ニ於イテハ獨リ得難キノ貨ニ限ラズ、普通ノ財物ト雖之ヲ

貴ビ之ヲ私スルノ念慮アルコトヲ許サナイノデアル。サレバ財物ヲ生産スルニシテモ、機械ナドヲ用ヒテ勞ヲ省キ功ヲ多クスル如キハ固ヨリ其ノ取ラザル所デアル。『莊子』ニ子貢ガ嘗テ一農夫ノ井水ヲ甕ニ汲ミ、之ヲ抱キテ田ニ灌溉スルヲ見テ、其ノ力ヲ用フルコト多ク功ヲ見ルコト寡キヲ氣ノ毒ニ思ヒ、農夫ニ告グルニ一日ニ百畦ヲ浸シ得ル機械アルコトヲ以テシタルニ、農夫ハ之ヲ斥ケテ、『機械アル者ハ必ズ機事アリ、機事アル者ハ必ズ機心アリ、申略 吾知ラザルニ非ズ、羞デテ爲サザル也』(註十)ト答ヘ、子貢大ニ赤面シタト云フ話ガアル。是レハ寓言デアツテ必シモ機械ノ事ヲ主トシテ述ベタノデハナイガ、『常ニ自然ニ因リ生ヲ益サザル』(註十二)莊子ノ思想ヨリ觀テ、機械ヲ用ヒテ生産ヲ助クル如キハ、固ヨリ其ノ認容セザル所ナルハ明デアル。

扱人ガ財ヲ尊ビ互ニ相爭奪シ、遂ニ災禍屈辱ニ陷ルハ欲望アルガ爲メデアルガ、然ラバ其ノ欲望ハ何處ヨリ起リ來ルカト云フニ、道家ハ之ヲ以テ人間ノ知識ニ本ヅクモノトシテ居ル。ソコデ人々ヲシテ欲望ヲ棄テ去ラシメンニハ、先ヅ其ノ知識ヲ漸減セシメチバナラヌトシ、或ハ『學ヲ絶テバ憂ナシ』(註十二)トカ、或ハ『聖ヲ絶チ知ヲ棄ツレバ民利百倍ス』(註十三)ト言ヒ、又『古ノ善ク道ヲ爲ムル者ハ以テ民ヲ明ニスルニ非ズ、將ニ以テ之ヲ愚ニセントス、民ノ治メ難キハ其ノ智多キヲ以テナリ、故ニ智ヲ以テ國ヲ治ムルハ國ノ賊ナリ、智ヲ以テ國ヲ治メザルハ國ノ福ナリ』(註十四)ト言ツテ居ル。列子ニ忘ヲ病ム者ノ幸福ヲ説ケルモ亦此ノ思想ヲ寓言ニ託シタルモノデアル(註十五)。即チ道家ハ無欲論ヲ主張スルト共ニ又無知論ヲ唱道シタノデアル。後世法家者流ノ民ヲ愚ニスルノ政策ハ、全ク此ノ思想ヲ取りテ惡用セシニ外ナラヌノデアル。

(註一) 不欲以靜、天下將自正、(『老子』第三十七章)

(註二) 夫虛靜恬澹、寂寞無爲者、天地之平、而道德之至、故帝王聖人休焉、(『莊子』天道篇)

(註三) 五色令人目盲、五音令人耳聾、五味令人口爽、馳騁田獵、令人心發狂、難得之貨、令人行妨、(『老子』第十二章)

(註四) 禍莫大於不知足、咎莫大於欲得、(同第四十六章)

(註五) 知足不辱、知止不殆、(同第四十四章)

(註六) 知足者富、(同第三十三章)

(註七) 不貴難得之貨、使民不爲盜、(同第三章)

(註八) 隨玉毀珠、小盜不起、(『莊子』法篋篇)

(註九) 天有時、地有利、晉盜天地之時利、雲雨之滂潤、山澤之產育、以生吾禾、殖吾稼、鑿吾垣、建吾舍、陸盜禽獸、水盜

魚鼈、亡非盜也、(『列子』天瑞篇)

(註十) 有機械者必有機事、有機事者必有機心、……吾非不知、羞而不爲也、(『莊子』天地篇)

(註十一) 常因自然、而不益生也、(同德充府篇)

(註十二) 絕學無憂、(『老子』第二十章)

(註十三) 絕聖棄智、民利百倍、(同第十九章)

(註十四) 古之善爲道者、非以明民、將以愚之、民之難治、以其智多、故以智治國、國之賊、不以智治國、國之福、(同第十六

十五章)

(註十五) 『列子』周穆王篇

三 斯クテ老子ハ其ノ政治上ノ理想ヲ次ノ如ク述ベテ居ル。曰ハク『賢ヲ尙バザレバ民ヲシテ
爭ハザラシム、得難キノ貨ヲ貴バザレバ民ヲシテ盜ヲ爲サザラシム、欲スベキヲ見サズンバ必ヲ

シテ亂レザラシム、是ヲ以テ聖人ノ治ハ、其ノ心ヲ虛シクシ其ノ腹ヲ實タシ、其ノ志ヲ弱クシ其ノ骨ヲ強クス、常ニ民ヲシテ無知無欲ナラシメ、夫ノ知ル者ヲシテ敢テ爲サザラシム、無爲ヲ爲セバ治マラザルコト無シ』(註二)ト。是レ民ヲシテ無知無欲嬰兒ノ如クナラシムルノデアル。又或ハ『我爲スコト無クシテ民自ラ化シ、我靜ヲ好ンデ民自ラ正シ、我無事ニシテ民自ラ富ミ、我無欲ニシテ民自ラ樸ナリ』(註二)ト言ツテ居ル。コレ所謂無爲ニシテ化スルノ政治デアル。老子ハ太古原始ノ時代ニハスカル狀態ヲ實現シテ居タモノト信ジ、今日人民ヲシテ無知無欲嬰兒ノ如ク爲ラシムルヲ得バ、此ノ太古淳樸ノ社會ニ復歸スルコトガ出來ルトスルノデアル。サレバ彼ハ自己ノ理想的社會ヲ描キ出シテ、『小國寡民、什伯ノ器アルモ用ヒザラシメ、民ヲシテ死ヲ重ンジテ遠ク徙ラザラシム、舟車アリト雖之ニ乗ル所無ク、甲兵アリト雖之ヲ陳ブル所無シ、民ヲシテ復タ繩ヲ結ビテ之ヲ用ヒ、其ノ食ヲ甘シトシ、其ノ服ヲ美シトシ、其ノ居ニ安ンジ、其ノ俗ヲ樂シミ、鄰國相望ミ雞犬ノ聲相聞ユルモ、民老死ニ至ルマデ相往來セザラシム』(註三)ト言ツテ居ル。晋ノ陶淵明ノ桃花源ノ記ノ如キハ、實ニ此ノ老子ノ理想社會ヲ更ニ具體化シタルモノニ外ナラヌノデアル。

莊子ノ政治論モ老子ト大差ハ無イ。『古ノ天下ヲ書フ者無欲ニシテ天下足り、無爲ニシテ萬物化ス』(註四)ト言ヒ、又『天下ヲ在宥スルヲ聞ク、天下ヲ治ムルヲ聞カザル也』(註五)ト言ツテ居ル。蓋シ人民ハ之ヲ統馭スレバ却ツテ亂レ、無爲ニシテ自由ナラシムレバ即チ治マルトスルノデアル。サレバ胠篋篇ニ至德ノ世トシテ前掲ノ老子ノ理想社會ヲ述ベ、更ニ山木篇ニハ建德ノ國ト

稱スル理想國ヲ描イテ居ル。曰ハク『南越ニ邑アリ、名ヅケテ建德ノ國ト爲ス、其民愚ニシテ朴ナリ、私少クシテ欲寡シ、作スコトヲ知リテ藏ムルコトヲ知ラズ、與ヘテ其報ヲ求メズ、義ノ適スル所ヲ知ラズ、禮ノ將^{オホユナ}フ所ヲ知ラズ、猖狂妄行シテ乃チ大方ヲ蹈ム、其ノ生樂ム可ク、其ノ死葬ル可シ』(註六)ト。是レ根本觀念ニ於イテ老子ノ理想社會ト徑庭ナキモノデアル。

以上ノ如ク老子ヤ莊子ノ理想社會ハ餘程現世トハ懸ケ離レタモノトナツテ居ルガ、サリトテ絶對ニ地上ニ現出シ得ナイ理想デモナイ。其ノ無欲論ハ名ハ無欲論ナルモ其ノ實ハ寡欲論デアツテ、經濟的欲望ヲ全然否定シ去ルモノデハナイ。サレバ『聖人ノ治ハ其ノ心ヲ虛ウシ其ノ腹ヲ實タス』(註二)ト言ヒ、或ハ『至德ノ世ハ賢ヲ尙バズ能ヲ使ハズ、上標枝ノ如ク、民野鹿ノ如シ』(註七)ト言ヒ、禽獸ト同様ニ單ニ口腹ヲ實タシ饑渴ヲ醫スルダケノ原始的欲望ハ猶之ヲ認メタノデアル。從ツテ儒家ノ寡欲論ニ比シ、其ノ程度ガ非常ニ懸隔シテ居ルト云フニ止マルノデアル。然ルニ列子ニ至リテハ時ニハ老莊ニ子ト同様ニ寡欲ヲ主張シタカニ見ユル點モアルガ、遂ニ之ニ満足シ得ザリシモノト見ユ、寡欲論ヨリ更ニ一步ヲ進メテ絶對の無欲論ヲ唱フルニ至ツタノデアル。

列子ハ理想ニ馳セタル結果、遂ニ現世ニ於イテ到底實現シ得ベカラザル社會狀態ヲ夢想シ、而シテ其ノ所謂理想國ハ、其ノ書中到處ニ描キ出シテアル。先ヅ黃帝篇ニ於イテ、黃帝ガ即位ノ初十五年間ハ自己ノ欲望満足ノミニ努メタガ、其ノ結果ハ心身共ニ衰弱スルノミデ何ノ得ル所モ無イ。ソコデ次ノ十五年間ハ天下百姓ノ爲メニ大ニ心力ヲ用ヒタガ、是レモヤハリ焦然トシテ肌色衰ヘ、昏然トシテ五情惑フノ結果ヲ生ズルニ過ギナカッタ。ソコデ黃帝大ニ落膽セラレ三月政

ヲ親ラセラレナカツタ。然ルニ或日晝寢ノ夢ニ華胥氏ノ國ニ遊ビ、既ニシテ寤メテ悟然トシテ自得シ、其ノ後二十八年天下大ニ治マリ、幾ンド華胥氏ノ國ノ如クナツタアル。ソレデハ其ノ華胥氏ノ國ハ如何ナル狀態デアルカト云フニ、『其ノ國帥長ナク自然ナルノミ、其ノ民嗜欲ナク自然ナルノミ、生ヲ樂シムコトヲ知ラズ、死ヲ惡ムコトヲ知ラズ、故ニ天賜ナシ、己ヲ親シムコトヲ知ラズ、物ヲ疎ンズルコトヲ知ラズ、故ニ愛憎ナシ、背逆ヲ知ラズ、向順ヲ知ラズ、故ニ利害ナシ』(註八)ト言ツテ居ル。又湯問篇ニ禹ガ水土ヲ治ムル際、途ヲ迷ツテ行ツタトイフ終北ノ國ノ狀態ヲ記シテ、『土氣和ニシテ札厲ナク、人性婉ニシテ物ニ從ヒ、競ハズ爭ハズ、柔心ニシテ弱骨、驕ラズ忌マズ、長幼儕居シテ君アラズ臣アラズ、男女雜游シテ媒セズ聘セズ、水ニ緣ウテ居リ、耕サズ稼セズ、土氣溫適ニシテ織ラズ衣ズ、百年ニシテ死ス』(註九)ト言ヒ、周ノ穆王ハ壯遊シテ此ノ國ヲ過ギリ二年歸ルコトヲ忘レタリトイヒ、管仲ハ桓公ニ勸メテ此ノ地ニ遊バシメントシタナド、言ツテ居ル。此ノ外列姑射ノ山ノ神人ハ『風ヲ吸ヒ露ヲ飲ミ、五穀ヲ食ハズ、中略施サズ惠マズシテ物自ラ足り、聚メズ歛メズシテ己レ懲ナシ』(註十)ト言ヒ、西極ノ南隅ニアル古莽ノ國ニテハ、『其ノ民食セズ衣ズ、而シテ多ク眠リ、五旬ニ一タビ覺ム、夢中爲ス所ハ實ニシテ、覺ノ見ル所ハ妄ナリト以ヘリ』(註十一)ナド、言ツテアル。是ニ由ツテ觀レバ列子ハ欲望ヲ絕對ニ排斥セントスル結果、遂ニ食ハズ衣ズ經濟的欲望ノ皆無ナル人間ヲ想像シ、又其ノ人間ノ作レル社會ヲ想像シテ、斯カル理想國ヲ描キ出シタノデアル。從ツテ其ノ理想國ハ、老莊二子ノ理想國ニ比ブレバ遙ニ詩的デアツテ空想的ノ者デアル。而シテ其ノ無欲論ハ、老莊二子ノ無欲論ニ較ベテ遙

ニ徹底シテハ居ルガ、同時ニ現實トハ餘程懸ケ離レタモノトナツテシマツタノデアル。其ノ後道家ノ學ガ形ヲ變ヘテ道教トイフ宗教トナツテカラハ、列子ノ言フ如キ理想國ガ實際何處カニ存在スルモノト考ヘ、又其ノ理想國ニ住ンダ仙人ガ、實際何處カニ生息スルモノト思ヒ、其ノ國ヲ求メ其ノ仙人ト同ジクナラントシテ、種々ノ藥ヲ鍊ルト云フヤウナコトヲモ爲スニ至ツタノデアル。

(註二) 不尙賢、使民不爭、不貴難得之貨、使民不爲盜、不見可欲、使心不亂、是以聖人之治、虛其心、實其腹、弱其志、強其骨、常使民無知無欲、使夫知者不敢爲也、爲無爲、則無不治、(『老子』第三章)

(註三) 我無爲而民自化、我好靜而民自正、我無事而民自富、我無欲而民自樸、(同第五十七章)

(註四) 小國寡民、使有什伯之器而不用、使民重死而不遠徙、雖有舟車、無所乘之、雖有甲兵、無所陳之、使民復結繩而用之、甘其食、美其服、安其居、樂其俗、鄰國相望、雞犬之聲相聞、民至老死不相往來、(同第八十章)

(註五) 古之畜天下者、無欲而天下足、無爲而萬物化、(『莊子』『天地篇』)

(註六) 聞在宥天下、不聞治天下也、(同在宥篇)

(註七) 南越有邑焉、名爲蹇蹇之國、其民愚而朴、少私而寡欲、知作而不知藏、與而不求其報、不知義之所適、不知禮之所將、猖狂妄行、乃陷乎大方、其生可樂、其死可葬、(同山水篇)

(註八) 至德之世、不尙賢不使能、上如樛枝、民如野鹿、(同天地篇)

(註九) 其國無帥長、自然而已、其民無嗜欲、自然而已、不知養生、不知惡死、故無夭癯、不知親己、不知疎物、故無愛憎、不知背逆、不知向順、故無利害、(『列子』『黃帝篇』)

(註十) 土氣和亡札厲、人性婉而從物、不競不爭、柔心而弱骨、不驕不忌、長幼儕居、不君不臣、男女雜游、不媒不聘、緣水而居、不耕不稼、土氣溫適、不織不衣、百半而死、(同湯問篇)

(註十一) 吸風飲露、不食五穀、……不施不惠、而物自足、不聚不歛、而已無愆、(同黃帝篇)

(註十二) 其民不食不衣而多眠、五旬一覺、以夢中所爲者實、覺之所見者妄、(同周禮王範)

四 結 論

儒家及び道家ノ欲望ニ關スル見解ハ大要以上ノ如キモノデアル。今之ヲ約言スレバ、一面ニ於イテ欲望ノ一部若クハ全部ヲ以テ不自然ノモノナリトシ、之ヲ制限セザルベカラズトスルト同時ニ、他ノ一面ニ於イテ道德ヲ以テ自然的ノモノナリトシ、是ニ歸一スベキモノト爲スコト、是レ大體ニ於イテ二家ノ一致スル所ノ根本觀念デアル。唯其差異ノ存スル所ハ、一ハ其ノ欲望ヲ制限スル程度ニ相違アルト、一ハ其ノ認メテ道德ト爲ス所ノモノノ内容ガ異ルノデアル。尤其中ニ荀子ノ如キ例外ガアツテ、欲望ヲ以テ自然トシ道德ヲ以テ不自然トスルノデアルガ、併シ荀子トテモ欲望ト道德ト孰レガ自然ニシテ孰レガ不自然ナルカニ就キテハ、道家及び他ノ儒家ト見解ヲ異ニスルノデアルガ、其ノ欲望ヲ制限シテ道德生活ニ入ラザルベカラズトスル點ニ於イテハ、固ヨリ二家ノ主張ト背馳スルモノデハナイノデアル。

凡ソ經濟活動ノ出發點ハ消費デアツテ、消費ノ由ツテ來ル所ハ欲望ニ存スル。サレバ儒道二家ノ欲望論ハ、同時ニ其ノ經濟思想ノ出發點ヲ示スモノデアル。而シテ儒道二家ノ學ハ、支那ノ社會ニ於イテ、殊ニ學者士大夫ノ間ニ於イテ、古今ヲ通ジ最勢力アリシ思想ナルコトハ前ニ既ニ述ベタル通りデアル。サレバ支那ノ經濟學說ハ、一般ニ何レモ欲望制限論ノ基礎ノ上ニ立ツト云フコトニナルノデアル。斯クノ如ク支那ノ經濟思想ガ欲望制限論ヨリ出發スルトイフコトハ、其

經濟思想全體ノ上ニ種々ノ特色ヲ持チ來スコトナルノデアル。今其ノ主ナルモノニ二三ヲ擧ゲンニ、第一ニハ其ノ消費論デアル。即チ奢侈贅澤ヲ禁ジテ節用貯蓄ヲ重ンズルハ支那經濟思想ノ特色トスル所デアルガ、是レハ欲望制限論ノ當然ノ歸結デアル。第二ニハ生産上ニ於イテ商業及ビ工業ヲ賤シムノ思想デアル。是レハ奢侈ヲ助長シ無用ノ生産ヲ促ストイフガ其ノ主ナル理由デアル。交換ノ媒介タル貨幣ヲ賤シムモ亦之ト同様ノ理由ニ本ツクモノデアル。第三ニ分配ノ思想ニ關シテ所謂社會問題ノ如キモノガ早クヨリ發達セルコトガ著シキ事實デアル。是レハ經濟活動ガ各人ノ最少限度ノ生活ノ必要ニ應ズルガ爲メデアルノト、且富トハ或特殊ノ人間ノ財ヲ餘計ニ増スコトニ非ズシテ、社會ニ貧乏人ヲ作ラナイト云フコトデアルカラデアル。支那古來ノ經濟學說ガ動モスレバ今日ノ所謂社會主義的或ハ社會政策的傾向ヲ有スルモノアルハ、實ニ此ノ理由ニ本ヅクモノデアルト思フ。

猶ホ最後ニ一言シテ置キタイノハ、支那ノ政治經濟ノ思想ガ一般ニ世界主義ニ立脚シテ居ルト云フコトデアル。支那ノ學者ハ口ヲ開ケバ即チ治國平天下ヲ言フガ、其ノ天下トハ今日ノ所謂世界ト同義デアル。即チ世界ノ平和トイフコトガ彼等ノ理想デアツテ、又支那ハ嘗テ實際ニ此ノ世界主義ヲ實行シテ來タノデアツタ。而シテ其ノ國家ヲ認ムルハ唯世界ノ一構成要素トシテデアツテ、恰モ國家ノ一構成要素トシテ家ヲ認ムルト同理デアル。サレバ若シ今日ノ個人主義的ノ國家ヲ標準トシテ、以上述べ來ツタ支那經濟思想ヲ觀ルモノガアツタナラバ、其レニヨリテ正當ナル理解ヲ得ルコトハ蓋シ難カラウト思フノデアル。(完)